

## 神経内科の重要性

現在我が国では認知症は 600 万人、脳卒中は 118 万人、パーキンソン病は 20 万人程の患者さんがいます。超高齢社会を迎えている本邦では今後もこれら神経疾患の患者数は増多の一途を辿ることが予想されます。つまり、**神経内科医のニーズは益々高まっております**。私達、山梨大学神経内科教室は神経内科医の教育とともに、**基礎研究を通じて physician scientist の育成にも力を入れたいと考えております**。学部学生の皆さんには、興味を持っていただき、自分の研究テーマを見つけて頂けたらと思います。

## 自己紹介

私は 2000 年 3 月に順天堂大学医学部を卒業し、

同大学神経学講座へ入局しました。これまで、

脳卒中の臨床研究、基礎研究の両立を目指してま

いりました。基礎研究では、ラット脳梗塞モデルや初代培養細胞（神経細胞、ミクログリア、アストロサイト）を用いて脳梗塞後の神経再生の病態を解明しています。

脳梗塞後の中枢神経系では様々なメカニズムで再生が起こることが多くの研究で明らかにされています。



私は神経細胞から分枝する「軸索の再生」に着目し、これまで研究を進めて参りました。近年、エクソソームにも着目し脳梗塞後の再生治療薬としての可能性を見出しました。特に、「**テイラーメイドエクソソームによる脳梗塞新規治療の開発**」という研究テーマで**創発的研究支援事業**にも採択され、将来的な社会実装化を目指しております。2022年7月に山梨大学神経内科教室へ着任致しました。新しいラボメンバーと基礎研究も現在立ち上げている最中ですが、学生さんと一緒にラボも成長できればと思います。そして、一緒に創発研究も進められればと思います！

[https://www.jst.go.jp/souhatsu/research/researcher\\_2021.html](https://www.jst.go.jp/souhatsu/research/researcher_2021.html)

## 研究テーマ

- ・動物モデルを用いた脳梗塞の基礎研究
- ・エクソソームを用いた脳梗塞再生医療
- ・神経疾患における血液、髄液サンプル由来のバイオマーカー探索研究

Ueno Y et al., Stroke 2012, Zhang Y, Ueno Y (Co-first author) et al., J Neurosci 2013,

Ueno Y et al., J Cereb Blood Flow Metab 2015, Hira K, Ueno Y et al., Stroke 2018,

Ueno Y et al., Int J Mol Sci 202, Miyamoto N, (Ueno Y) et al., Glia 2020